

労働市場制度と社会階層の生成

正規／非正規転換と職業的地位獲得に対する社会ネットワークと職業紹介の効果

名古屋大学 福井康貴

1 目的

教育制度への注目の高さとくらべて、労働市場に埋め込まれた制度が社会階層の生成にあたるインパクトについて、これまで十分な関心が払われてきたとはいえない。労働市場における階層的地位の移動は企業の内部か外部において生じるが、それぞれの労働市場には移動を左右する特有の制度的配置が存在すると考えられる。本報告では外部労働市場に焦点をあて、転職時に利用される職業紹介や社会ネットワークなどのフォーマル・インフォーマルな制度が、正規の世界と非正規の世界の間や、異なる職業的地位の間の開放性・閉鎖性と、どのように関わっているのかを明らかにする。

2 方法

社会階層と社会移動全国調査 (SSM 調査) の 2005 年と 2015 年のデータを合併して利用する。雇用形態の転換機会 (正規から非正規へ／非正規から正規へ) と職業的地位の獲得機会を入職経路との関係で捉えるため、目的変数は現職の雇用形態と職業的地位とする。関心のある説明変数は入職経路である。社会ネットワークを家族・親族、友人・知人、学校関係、会社関係に分類し、職業紹介をハローワークと民間職業紹介機関の 2 つに区別した。転職年代や前職の職業的地位による差異にも注目する。転職を経験した 20～60 歳の男女にサンプルを限定し、二項ロジットモデルを用いて検討した。

3 結果

直接応募とくらべたとき、社会ネットワークと職業紹介は、非正規から正規への転換にプラスの効果 (地位達成効果) を、正規から非正規への転換にはマイナスの効果 (セーフティネット効果) をもっている。また、職業によって地位を獲得しやすい入職経路は異なっており、専門職は学校関係と民間職業紹介機関、管理職は仕事関係、事務職は家族・親戚とハローワーク、熟練マニュアルは家族・親戚と友人・知人を通じて転職しやすい。

2010-15 年は 2000 年代とくらべると非正規から正規への転換が生じにくく、正規から非正規への転換は生じやすくなっているが、職業的地位獲得機会に関してはこうした転職年代による差がみられない。また、どの職業でも同じ職業からの転職がもっとも生じやすいが、正規／非正規間の転換に対して前職の職業的地位は影響していない。

4 結論

以上のように、社会ネットワークと職業紹介は、正規の世界と非正規の世界のふりわけに大きく関わっており、職業的地位との特定の結びつきが存在している。こうした事実をふまえたうえで、社会ネットワークと職業紹介がはたして階層構造を変動させる装置といえるのかという点を当日議論する予定である。

謝辞

本研究は、JSPS 科研費特別推進研究事業 (課題番号 JS25000001) と JSPS 科研費若手 B (課題番号: 17K13840) に伴う成果の一つであり、本データ使用にあたっては 2015 年 SSM 調査データ管理委員会の許可を得た。2015 年 SSM 調査データに関しては、2017 年 2 月 27 日版 (バージョン 070) を用いた。